

令和8年度ひみ未来づくりミーティング議事録（仏生寺地区）

日 時 2026/8/6 19:00～20:30
 場 所 仏生寺公民館クラブハウス
 出席者 33名
 市長、政策統括監 総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、
 防災・危機管理監、消防監理監、地域振興課、地域担当職員
 進 行 19:00～19:01 出席者紹介
 19:01～19:04 市長あいさつ
 19:04～19:33 市政の概要について（市長説明）
 19:33～20:17 意見交換
 20:17～20:30 閉会あいさつ 市長、地区代表

	質問の内容	回答
1	■仏生寺太田線(吉池～上中)通行止めの件について 県道296号仏生寺太田線の吉池の通行止めについて、通行止めになっている吉池地内の状況について昨年の未来ミーティングで説明を受けたが、現在の状況と今後の予定について改めて教えてほしい。	■建設部長 氷見土木事務所に伺ったところ、仏生寺太田線(上中地内)の地すべり災害については、有識者の意見も伺いながら対策工の検討を進め、令和7年9月に災害査定を終え、対策工として崩落した土砂の排土を実施することとしており、まずは工事の支障となる立木伐採作業を実施しているが、排土の運搬経路上に昨年8月の豪雨による被災箇所(吉池)があるため、まずはこの箇所の復旧を優先して進めると聞いている。 工事が開始されても、しばらくの間は、市外へ搬出する約1万㎡以上の土砂運搬と処理において、相応の時間を要することにご理解をお願いする。
2	■氷見南IC周辺の施設整備について アクセス道路整備の現状と、盛土工事・地質調査の結果を踏まえた進捗状況と今後の予定を確認したい。	■建設部長 飯久保新町と市道布施大浦線の交差点まで、第一期区間として延長約740mにおいて、令和6年度に地盤の安定を図るために沈下を促す載荷盛土を施工し観測を実施したところ、沈下量が想定より小さかったため、追加の載荷盛土を実施、完了し、継続して沈下観測を行っている。 工事着手は沈下観測の検証後になるとのことですが、軟弱地盤対策に必要な工程ととらえて、引き続き事業へのご理解をお願いする。 また、事業の進捗としては、残っていた1件の物件補償についても契約したと聞いている。
3	■仏生寺公民館の避難所機能について 避難所として安全性を確保するための地盤調査が行われたが、その結果と必要な対策工事の有無等、今後の方針を確認したい。	■建設部長 業務を実施した氷見土木事務所へ確認したところ、現在は地質調査が完了し、安全性を確保するためにどのような対策が必要かについて、複数の案を検討中とのことである。また、国との協議が必要となる可能性もありますが、早ければ年内に対策工法が固まる見込みであると聞いている。 対策工法の決定後、令和9年度に用地測量、用地交渉、区域指定を行い、全ての手続きが完了した後、工事に着手する予定である。
4	■仏生寺経由の路線バスについて 路線維持の見通しについて、乗降客の現状と今後の見込みを踏まえ、仏生寺経由路線が廃止されることはあるのか。	■企画政策部長 加越能バスが運行する路線バスについて、路線ごとの利用者数は発表されていない。市内全体(氷見営業所管内)の年間利用者数は、令和2年度から概ね36万人程度と横ばいの状況である。 また、今後の見込みについては、少子化等による通学利用の減少がある一方、高齢者の運転免許の返納等によるバス需要の増加が見込まれるものと考えている。いずれにしても、当該路線は通学や通院などの市民生活を支える重要な移動手段であると考えており、市としては、例年実施している加越能バスへの運行費補助を引き続き実施し、地域の足を確保していく。

5	■ごみ集積場整備補助金について 集積場の併合を進めるため、合併する場合の補助金額の増額を検討してはどうか。	■市民部長 令和9年度以降に予定しているプラスチック資源の回収品目拡大のため、令和8年度に、分別、収集ルールの調査等を行っている。今後の自治会の運営形態も勘案しながら、ごみステーションの設置、管理負担の変化にも対応できるよう、集積方法や助成制度の在り方について、合わせて検討したいと考えている。
6	■災害ボランティアについて 消防団員の確保が難しい一方で、自主防災会はあるが十分に機能しているとは言えない状況がある。市民がいきなり消防団に入るのは心理的・時間的な負担が大きい。現在、社協を中心に災害ボランティア体制が運営されているが、平時から仕事や家庭の都合に合わせて参加できる災害対応ボランティア制度を整備することで、地域防災力の底上げと消防団の担い手拡大が期待できるのではないかと。	■防災・危機管理監 平時の災害対応ボランティアについては、氷見市内の防災士で組織する氷見市防災士ネットワークで、地域防災活動や災害時の支援、研修、訓練を行っており、担い手として期待している。 この組織は現在、165名が在籍しており、全ての自主防災組織単位で会員が在籍しており、また、消防団経験者も豊富であるため、地域防災力の底上げに尽力いただけるのではないかと考える。 なお、現在、災害救済ボランティアに登録されている方は、氷見市社会福祉協議会によると、約1,300名であり、うち市内の方は、約1割程度であると聞いている。 新たな、災害対応ボランティア制度については、氷見市のボランティアの現状を一番把握している氷見市社会福祉協議会と協議して、調査研究してまいりたいと考えている。
7	■大覚口の阿効谷内池について 阿効谷内池の現状の課題について要望したい。 ①排水の足場が悪い点について、高齢者への配慮のため、階段及び手すりの設置をしてもらえないか。 ②止水弁について木杭使用のため留水が止まらない点について、止水弁にキャップ等の設置をしてもらえないか。 ③上流の土砂が池に流れ込み、池の体積が本来の約半分しかたまらない点について、池の溜まり土砂の撤去をしてもらえないか。	■建設部長 ため池については、農業用水の確保を目的に地元で設置され、維持管理についても、利用者（地域住民）によって実施されている。 ため池の補修につきましても、維持管理同様、地元で行っていただくことになる。 補修については、土地改良区が事業主体となっていく県単独土地改良事業や地元が行う市単独土地改良事業があり、市からはその事業に要した費用に対して補助を行っている。 一度、業者の方に必要な事業費を見積もっていただき、市または土地改良区の方へご相談いただければ対応していく。
8	■有害鳥獣の対策について 有害鳥獣の対策強化について、市はどのように考えておられるか。 また、最近イノシシの被害が多く、対策についての補助のアップや、別の対策等があれば教えていただきたい。	■産業振興部長 特に、クマ、イノシシの被害が出ないようにしている。個体数を減らすことが重要であり、檻を設置して捕獲することや、地域に協力を依頼して柿の木を切るなどを行っている。また、猟友会に依頼してサギの駆除も行っている。 イノシシの農作物への被害の対策とすればやはり電気柵が有効であると考え、その補助制度もあるが、まだまだ必要ということであれば、県と連携して検討していく。
9	■水道の水源について 昨年、五位ダムで農業用水が枯れるということがあったが、今年の氷見市での状況を教えてほしい。	■建設部長 今年は去年と比べ、今のところ問題はないが、梅雨明けした現在、天候次第ではどうなるかはわからないのが現状である。水源の確保については県と情報交換しつつ、例えば子撫川ダムが渇水した場合は応援給水してもらうなどの対応をしていきたいと考えている。
10	■能越道について 能越道を二車線化する予定はあるか教えてほしい。	■建設部長 このことについては国に対し、重点要望をしているところである。しかしながら、能登半島北部がまだ未整備のため、そちらを優先している状況である。

11	■子供の遊び場確保について 氷見市には子供を連れていける遊び場が少ないと感じる。子供が喜ぶような施設を増設してほしい。そうすれば若い人も住んでくれるのではないか。	■市民部長 子育て支援課にて室内の子供の遊び場について検討している。方針を今年度中に作りたいと考えている。 ■市長 暑さに対応でき、子供から大人まで楽しめる施設を検討していきたい。
12	■市民への情報提供について 事件等の情報をLINE等を活用して迅速に共有することはできないか。	■市民部長 警察と協議し検討したい。
13	■湖南小学校・十三中学校について 児童生徒数の将来推移について、教えてほしい。	■教育次長 今後の児童生徒数について、小学校は年々減少傾向にある。 また、十三中学校でも、小学校在校生から試算すると、令和11年度から令和14年度まで60人台で推移する見込みであり、小中いずれも減少すると考える。
14	■湖南小学校・十三中学校について 給食センター化について、令和11年度以降の見通しと伺っているが、実施時期はいつ頃になるか。	■教育次長 湖南小学校及び十三中学校における学校給食の給食センター化については、各学校における配送車受入のための改修整備や、給食センターにおける配送体制の運営整備などとの調整を要するため、令和11年度以降の具体的にいつからとは明確には申し上げにくい状況である。 地元の方々の声をお聞きしながら、なるべく配慮した実施時期を目標設定させていただきたいと考えている。
15	■農業後継者の育成について 農業後継者不足の現状をどのように把握しているか。10年後、20年後の農地維持の見通しについて教えてほしい。	■産業振興部長 令和6年度に各地区で10年後を目標に、どの農地を誰が耕作するのかなども含めた地域計画を、地域の担い手や農協の営農指導員も入って検討して策定いただいております。それぞれの地域で、それに基づき農地の維持に取り組んでいただいている。 市としても、国にいろいろな支援策を要望していきたい。
16	■道路の草刈り計画について 県道・市道・自治会管理の草刈り箇所を地図化し、市・県と自治会との重複作業を防ぎ効率化することを提案したい。	■建設部長 いつも県道、市道問わず、自治会をはじめ沿道農作業時においても草刈りを実施していただき感謝申し上げます。 ご提案の地図化による重複区間を防ぐ案としては、昨今の炎天下での作業の二度手間を防ぐためにも重要と考えています。また、県道、市道の草刈りのみならず、自治会によっては、林道・農道の草刈り箇所も対象となる地区もあると考えていますが、対象とならない地区もある。 まずは、そのようなご要望のある自治会において、個別に対応することもできますので、希望のある自治会におかれては、ご連絡いただければ、県道等の情報をお聞きし、対応したいと考えています。
17	■森林環境譲与税を活用した事業について 仏生寺地区ではどのようなことが実施されているのか。また、今後のどのような計画があるのか。	■産業振興部長 令和7年度以前の事業実績はないが、令和8年度事業では、森林組合や林業経営体の実施主体となって脇之谷内地区の森林作業道の補修を行うこととしている。また、造林事業の中で仏生寺地区(寺中、上原、脇之谷内)では下刈を行っていく。

18	■仏教遺跡「岩屋遺跡」について 氷見市文化財指定の可能性は、あるのか。また、可能性がある場合、指定によるメリット・デメリットを教えてください。	■教育次長 天然の洞窟を利用して信仰の場とした、「鞍骨岩屋遺跡」は、本市としても重要な遺跡であり、現在指定の候補の一つとして検討している。手続きとしては、指定に関しての見通しが立った段階で、土地所有者の了解が得られれば、文化財審議会への諮問と答申を経て、文化財指定という流れとなる。 メリットは、市で標柱を設置することや、文化財パンフレットに掲載するなどのPRにより遺跡を訪れる方々が増えることが想定される。また、保存修理が必要となった場合には市から補助を得られる可能性がある。
----	--	--